

令和7年度協同農業普及事業に係る外部評価委員の意見等の概要

所属名	玉名地域振興局 農業普及・振興課	鹿本地域振興局 農業普及・振興課	県南広域本部 農業普及・振興課	芦北地域振興局 農業普及・振興課	球磨地域振興局 農業普及・振興課	天草広域本部 農業普及・振興課
普及活動課題 (農業普及・振興課 活動成果発表会 発表課題)	トマト黄化葉巻病対策に向けた新たな一手 ～技術確立×低コスト化で天敵利用の 輪を広げる～	産地一体となった「環境づくり」で新規就農者 定着率100%維持を目指す ～すいか産地・維持発展に向けた新たな展開～	自ら生産する花粉で支える持続可能な ナン産地に向けて ～新たな花粉供給体制の構築に向けて～	水稲の担い手確保に向けた中山間農業支援 ～収益向上×担い手育成×生産効率化で好循環～	世界第3位！ゼロからのミシマサイコ産地育成	肉用鶏「天草大王」の魅力発信
高く評価 される点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト黄化葉巻病はトマト栽培農家にとって長年の問題であり、農業だけでは防げる病気ではなく、その問題を、天敵利用によりウイルス病の発生を抑えることと同時に、耐病性品種導入によりコストを抑えることにもつながったことは高く評価できる。</li> <li>・玉名の病気は玉名で防げ＝土着天敵を活用した防除技術の確立につながる取り組みである。</li> <li>・天敵の使用により、農薬の使用回数とコストを削減できるのは素晴らしい。</li> <li>・天敵と耐病性品種の導入によりウイルス病の発病リスクを低減させた点。</li> <li>・天敵利用技術を定着、普及させた点。</li> <li>・土着天敵に着目し、大幅にコストを削減させた点。</li> <li>・大規模産地での抜本解決が困難な課題に正面から取り組んでいる点。</li> <li>・生産者を巻き込んで一緒に検討を進めた点。</li> <li>・結果的に省力化やコスト削減につながった点。</li> <li>・玉名地域に適した天敵の使用方法を確立できるのであれば、農薬を減らすことができる取り組みとなる。</li> <li>・グリーン農業を進めるうえで、新たな柱となりうる。</li> <li>・自然の仕組みを活用する本来の農業の姿を感じる。</li> <li>・国も推進へと舵を切った有機農業に通じる取り組みであり、必要な農業と、自然の力の活用というバランスを見極めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山鹿市担い手育成総合支援協議会に「新規就農支援」が追加され、自身もそのメンバーの一人であるが、関係機関の連携強化がスムーズであり、JA・山鹿市・県・農家代表等が同じ目標に対して取り組みがなされている点は高く評価できる活動である。</li> <li>・新規就農者の抱える問題を的確に捉えることができつつある点。</li> <li>・農業経営に必要な5要素の習得を支援されたところ。</li> <li>・継続的に支援したことが、新規就農者の定着につながっている。</li> <li>・農業者を巻き込んだ交流により技術向上へつながった好例である。</li> <li>・産地として、新規就農や経営継承に関してミスマッチを防ぐ支援をした点。</li> <li>・DXスイカ継承マップを作成、活用した点。</li> <li>・新規就農者が増加し、高い定着率を維持している点。</li> <li>・課題設定の時点でしっかりと現状分析と調査がされている。</li> <li>・目標(ゴール)設定が分かりやすく成果を確認しやすい。</li> <li>・KPIの設定も工夫されており効果測定しやすい取り組みになっている。</li> <li>・関係機関との役割分担も工夫されている。普及がうまくコーディネートできている。</li> <li>・粘り強く関係機関と調整したことが伺える。</li> <li>・農業従事者を獲得する新たなソフト事業だと思ふ。人手不足は他産業との人の取り合い。</li> <li>・魅力ある産地であるからこそ、就農者は定着する。人の内面に寄り添う重要性が感じられた。</li> <li>・日本一のスイカ産地の維持に県としても関わるといふ意思を感じる取り組みだった。</li> <li>・普及指導員との連携で所得も増加につながっており、技術面のサポートの重要性も感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家が産地として自ら花粉を確保し、自給する体制を構築するという新たな取り組みの発想に驚かされた。</li> <li>・関係機関との連携も深まりつつある点は評価することができる。</li> <li>・産地で花粉自給体制を構築できたことは、今後の安定性につながる取り組みである。</li> <li>・火傷病発生による花粉輸入の停止などの問題に対し、早急に対応したところ。</li> <li>・産地内で花粉を確保し、自給体制を構築した点。</li> <li>・専用受粉樹の導入に当たり、生産者全戸を対象とした説明会を実施した点。</li> <li>・関係機関との役割分担が工夫されている点。</li> <li>・アンケート調査後、さらに徹底的に調査された点。</li> <li>・2次効果として園地台帳が整理できた点。</li> <li>・火傷病がきっかけではあったが、生産資材を中国に依存するリスクを事前回避できる取り組みだった。</li> <li>・産業界のレアアースのようなリスク管理を、他の品目にも広げ、点検、代替手段の有無の確認を急ぎたい。</li> <li>・生産者への呼びかけで中国産花粉の使用自粛が徹底でき、迅速な園地調査は良い判断であった。</li> <li>・代替花粉の確保も進めた点。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地利用型農業において、主に水稲はこの地域にもある作物である中、地域ブランドの確立は他の地域へのアピールにつながっている。</li> <li>・ブランド米や学び直しの機会、作業受託受付窓口の一括化など、生産から販売まで取り組んでいる。</li> <li>・ブランド力向上について、高付加価値化、PR力、販売戦略を見直した点。</li> <li>・担い手育成に期待できる。</li> <li>・受託組織の連携により生産効率の向上を図った点。</li> <li>・生産と販売の両面から根拠となる調査結果を示し品種転換を進めた点。</li> <li>・米価高騰のタイミングを逃さず取り組んでいる点。</li> <li>・担い手の多くを占める兼業農家に着目して支援した点。</li> <li>・受託組織の現状を踏まえた上で、適切な打ち手を提案できている点。</li> <li>・芦北という不利な土地条件でも農業・農地の維持に県として積極的に関わった。</li> <li>・県独自品種を地域ブランドとして活用できた。</li> <li>・県による品種開発が地域の農業、農地維持につながった好例と言える。</li> <li>・農地維持のため兼業農家も取り組んだ点。</li> <li>・農家の考えはかたくなだろうが、ヒノヒカリからの品種転換を引き出した点。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致活動がきっかけで、ミシマサイコ栽培がスタートしたことは、今後の熊本でのあり方として評価できる。</li> <li>・新しい作物導入は、非常に難しい中、良いモデルになっている。</li> <li>・農薬の登録にも驚かされた。</li> <li>・葉草というマイナー作物の産地化に取り組まれた点。</li> <li>・農薬登録の拡大支援により、使用できる農薬が増え、除草作業が効率化したところ。</li> <li>・展示ほの結果をもとにマニュアルを作成し、生産者および生産額の増加につながった点。</li> <li>・機械化・作業の効率化について検討し、労働時間削減という成果を出した点。</li> <li>・中山間地域の振興作物の発展性が期待できる。</li> <li>・新規作物導入に0から取り組み成果を上げている点。</li> <li>・自ら試験栽培し、農薬登録を増やすなど県も一定のリスクを負っている点。</li> <li>・新規耕作者も販売額も増えており着実に成果が出ている点。</li> <li>・新たな作物の生産安定と産地の成長のため、県として積極的に関わり栽培技術を確立しつつある。</li> <li>・地域に稼げる農業・産業を根付かせる、県の本来あるべき取り組みだといえる。</li> <li>・登録農薬を拡大できたのは大きな成果。県が主体的に関わってこそ実現できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農水産物を活かした取り組みの一つとして、天草大王はインパクトが強い。それを生かした活動は評価できる。</li> <li>・天草大王の加工品として、日持ちが良いという視点でアヒージョ缶の開発に取り組まれたところ。</li> <li>・天草AFFPを発足し、直売所と協力してメニューの検討や新商品開発を行った点。</li> <li>・生産振興だけでなく消費拡大への支援へも取り組んだ点。</li> <li>・農業関連高校との連携を進めた点。</li> <li>・商品開発や製品化に至っている点。</li> <li>・この活動をきっかけに農業関連高校生の雇用就農につながった点。</li> <li>・品質が高い品目が数多くある中で、目玉として売り出せるものを見出すことが最も難しい。全体をリードする新たな名物を作る発想は評価できる。</li> <li>・次代の生産者となりうる高校と連携し、生産に取り組んだ。</li> <li>・高校生の就農につながった点。</li> </ul>
今後改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト産地の持続可能な維持のために、技術の習得・天敵利用の技術を加速してほしい。</li> <li>・他品目(果樹)への波及を期待する。</li> <li>・天敵利用と農薬減少についての割合はどうか明らかにしてほしい。</li> <li>・クレオメ苗の今後の普及方法を検討してもらいたい。</li> <li>・現時点で天敵利用者が10名とのことなので、産地全体に広がるよう取り組んでほしい。</li> <li>・課題に対しての3つの取り組みが時系列で分かることよりPDCAが明確になり、普及に向けて説得力が増すのではないかな。</li> <li>・他地域への応用はどの程度可能かな。</li> <li>・消費者へのPR。</li> <li>・収量への評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者への技術面での支援を今後は広めてほしい。</li> <li>・今回は新規就農者の定着に絞った取り組みであったが、次のステップでは新規就農者も含めた産地の全体像を設定した上で取り組むとさらによいのではないかな。</li> <li>・関係機関との打ち合せや会議が相当な回数実施されており、苦労が伺えるが、今回の経験をもとにより効率の良い会議設計についても工夫されるとよりよいのではないかな。</li> <li>・人員減の中で、県としてどこまで支援の枠組みを広げるか、改めて考えさせられる。</li> <li>・取り組むべき施策の範囲設定、市町村との役割のすみわけも考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後関係機関と協力しながら、取り組みを病害虫対策等にも広げてほしい。</li> <li>・他県からの花粉の確保についての調査等を行ってほしい。</li> <li>・成果が数字で見えるときらによかったのではないかな。</li> <li>・他産地への花粉供給体制の構築の呼びかけと連携。</li> <li>・代替花粉への作柄への影響はあるのかな。</li> <li>・効率的な花粉供給体制づくり、他産地との連携の必要性。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域の問題は、担い手不足が大きなポイントとなる。その担い手育成に向けた流れを作ってほしい。</li> <li>・農作業受託システムが、仕組みや運用も含めて安定稼働できるよう期待したい。</li> <li>・他産地の条件不利地への波及を期待する。</li> <li>・市町村の活用。</li> <li>・他品目への展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家所得における効果が見えるときらに良いのではないかな。</li> <li>・地域活性化等への波及効果がでけるとよいのではないかな。</li> <li>・さらなる安定生産を進める。</li> <li>・新たな品目導入による産地の多様化、多品種化による安定化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天草大王の担い手育成・新規参入に対して、引き続き努力してほしい。</li> <li>・「天草大王」の魅力発信が天草地域全体の活性化に波及するような仕掛けを期待したい。</li> <li>・数字で成果が見えるときらによいのではないかな。</li> <li>・天草大王の名前と物語を想起させるインパクトのある新たな名物づくり。</li> <li>・「大王」なので、まずは大きさにこだわりたい。</li> </ul>
その他						